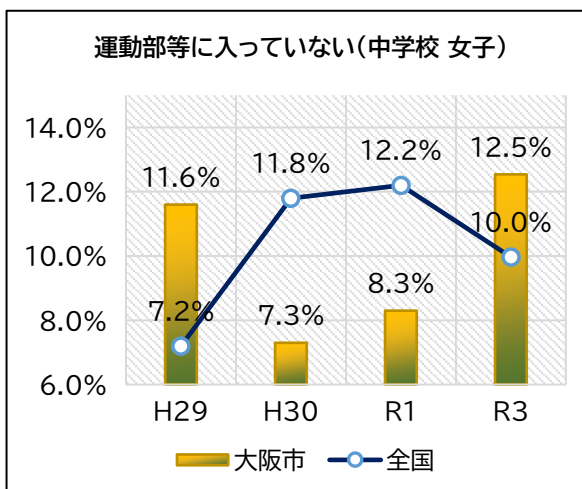
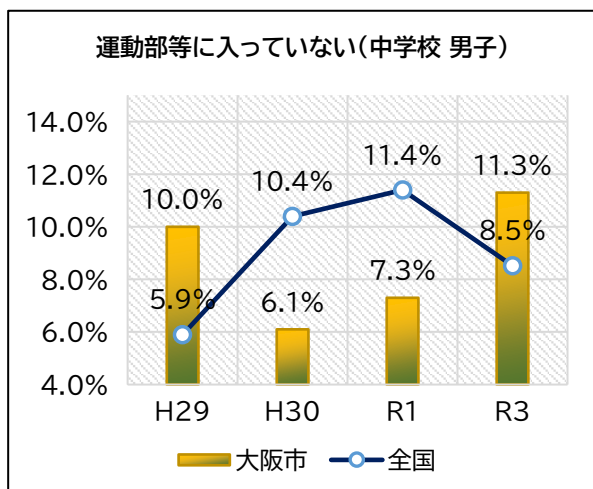
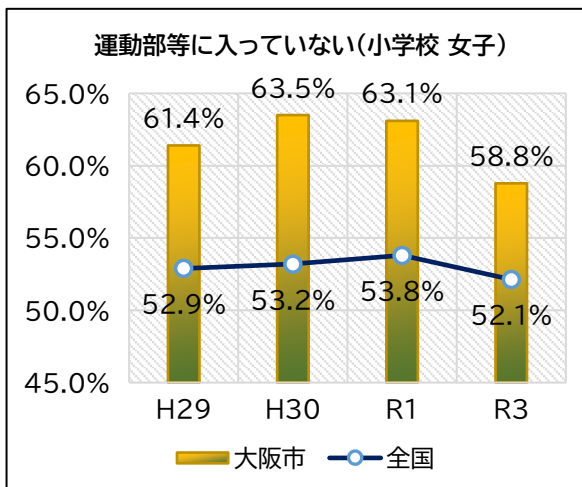
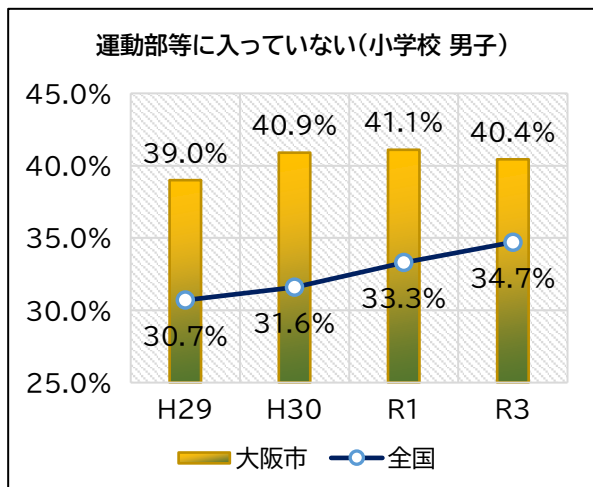


運動活動の少ない児童生徒の状況について

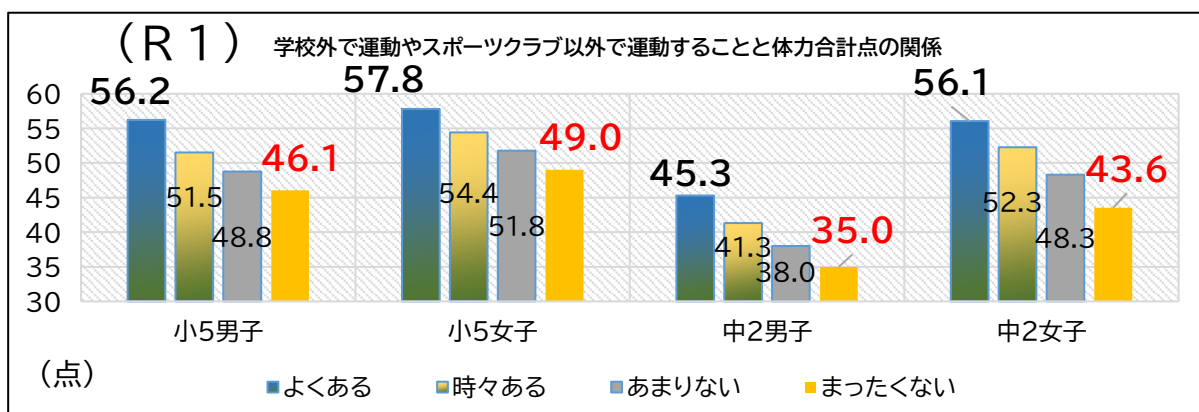
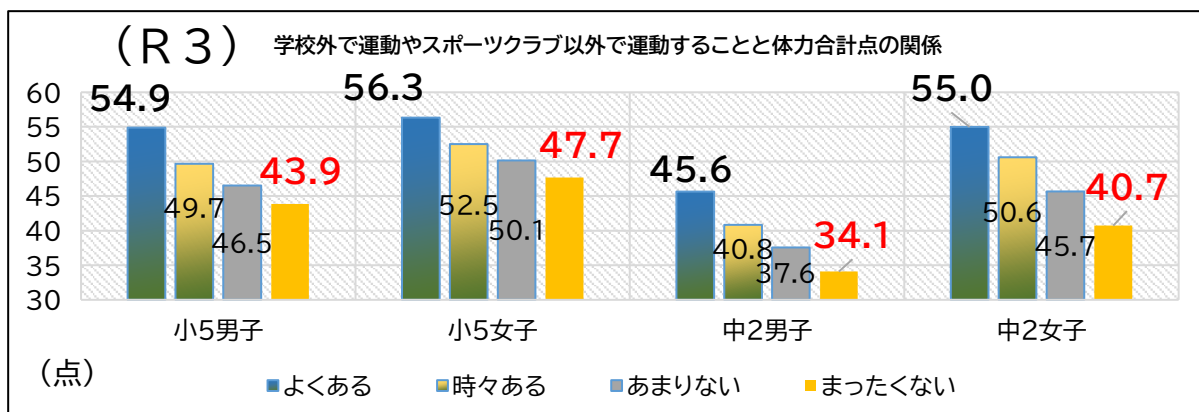
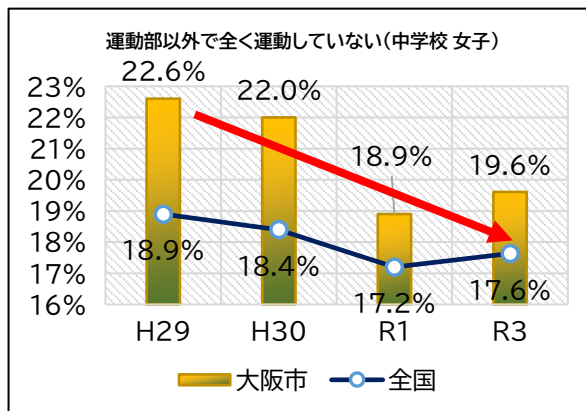
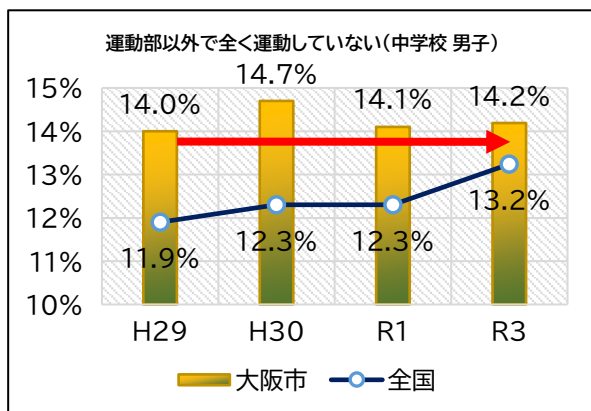
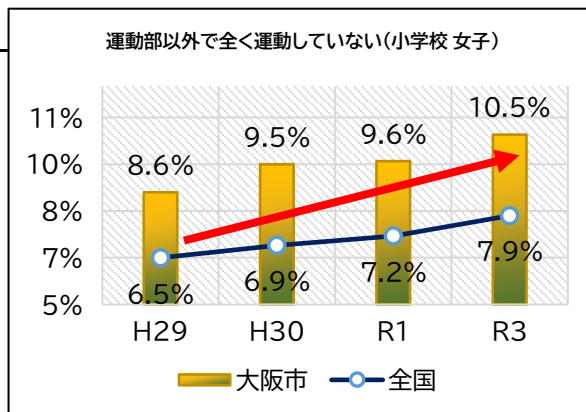
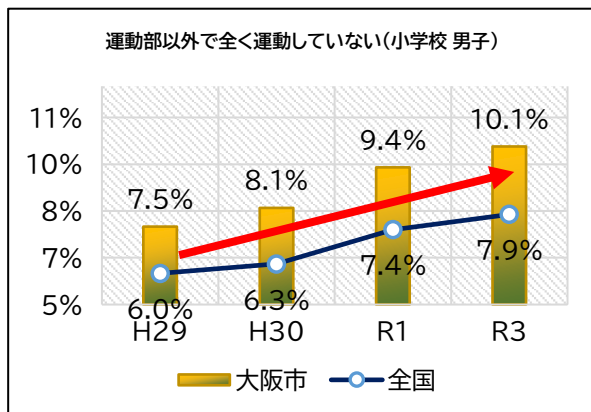
(児童生徒質問紙より)

1-1 学校の部活動や地域のスポーツクラブに入っていますか。(部活動に所属していない)



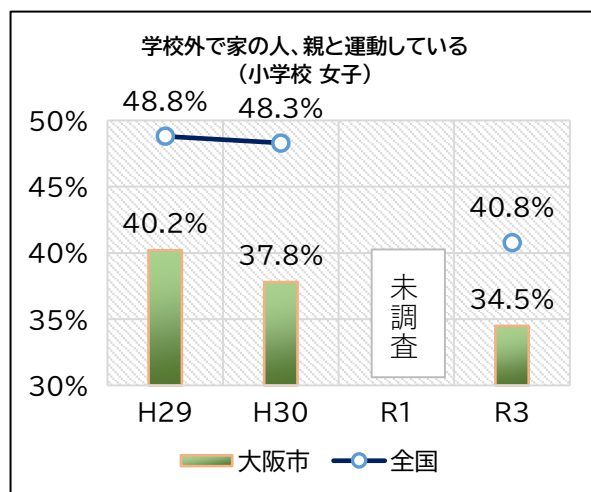
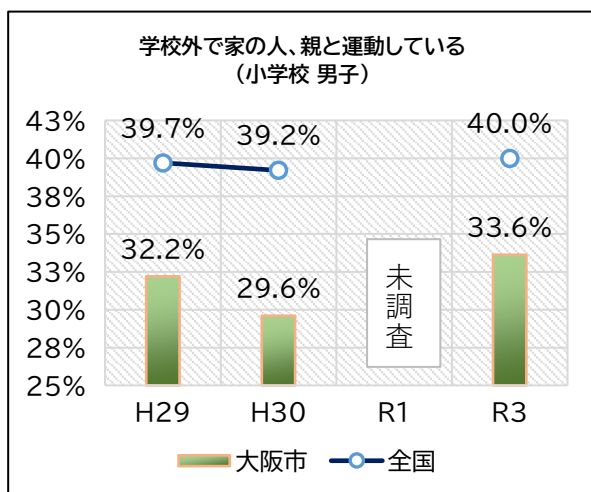
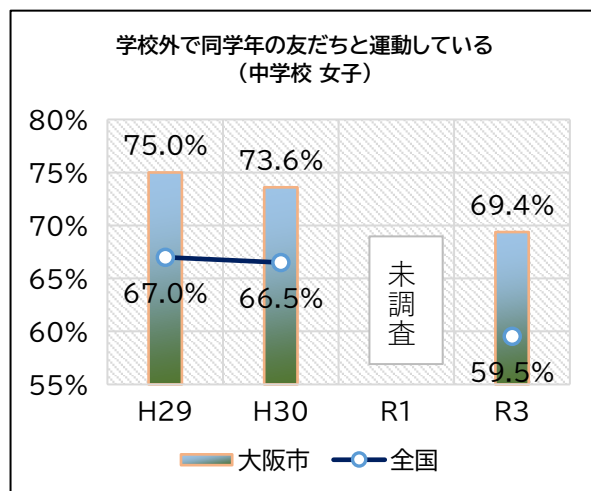
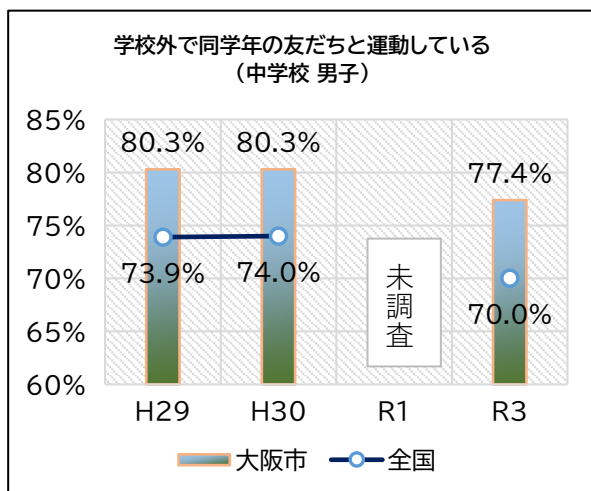
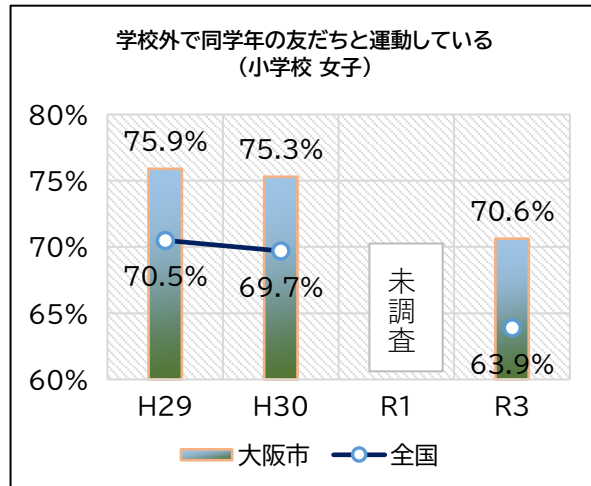
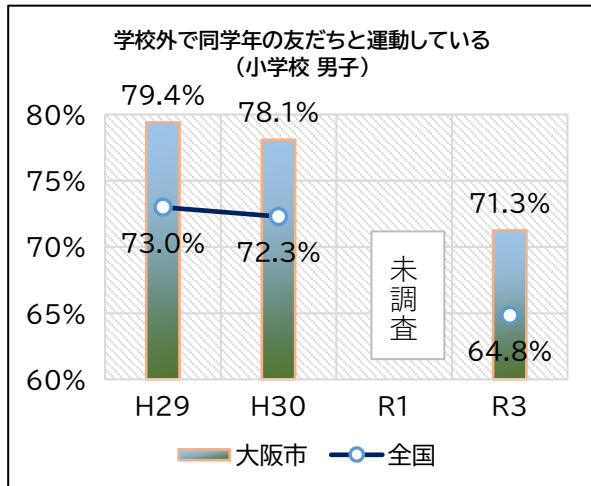
今年度の中学生は、全国的に男女とも部活動未加入率が低下している反面、大阪市では、近年で最も部活動未加入率が高い値を示した。

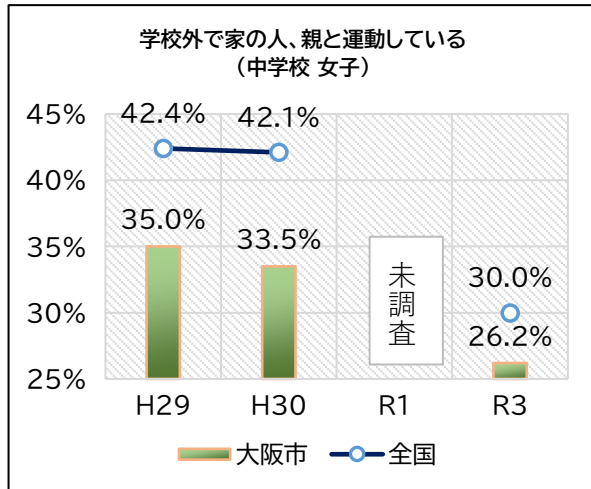
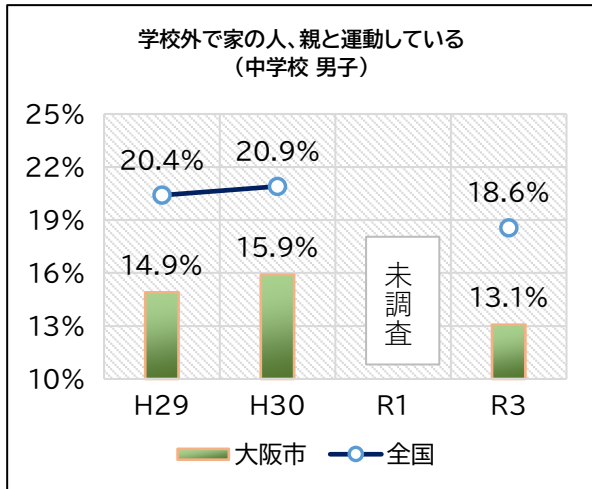
1-2 放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることがありますか。



小・中学校男女で、放課後や休みの日に、「全く運動していない」児童生徒の割合が、小学校では年々増加している。中学校では、男子は横ばい、女子はR1以降わずかに改善傾向になっている。特に、中学校女子については、約20%が全く運動していない。また、よく運動している児童生徒ほど、体力合計点が高い。

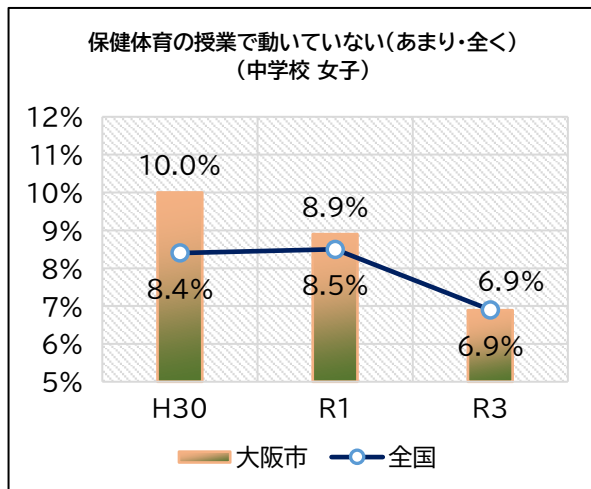
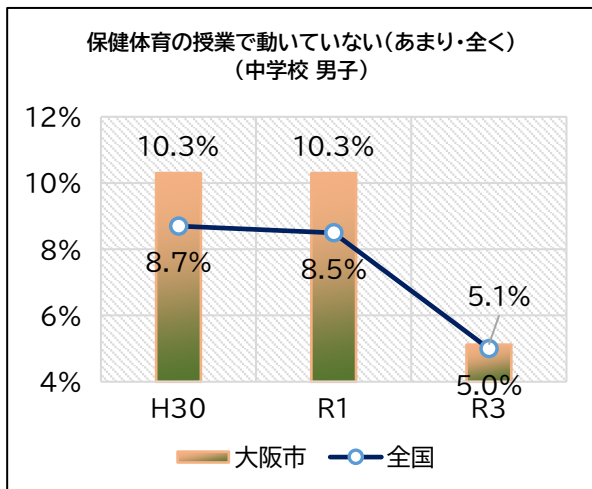
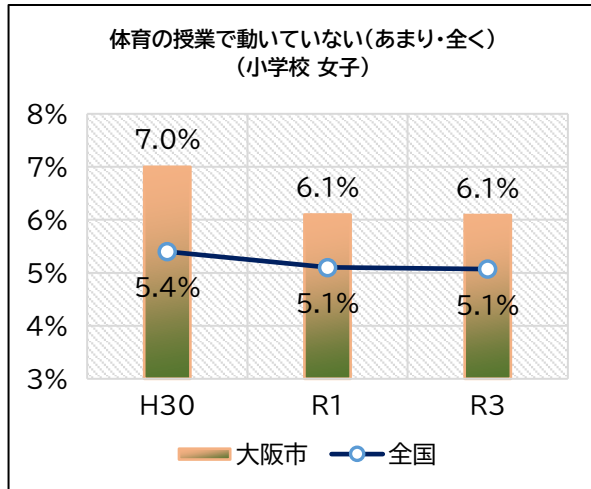
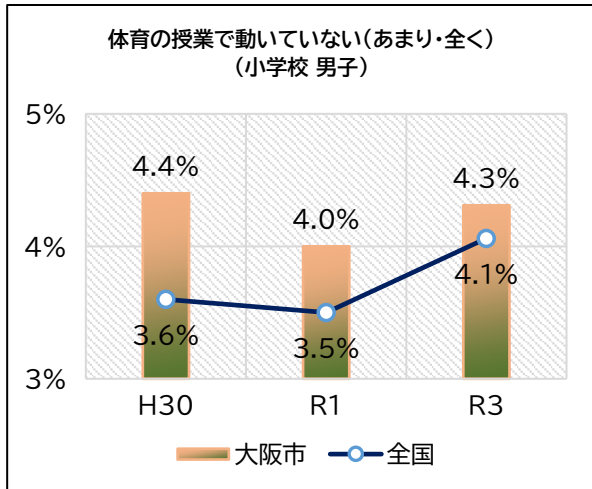
1-3 (2の質問で「あてはまる」または「時々ある」と回答した人)誰と運動(体を動かす遊びを
 楽しむ)やスポーツをしますか。





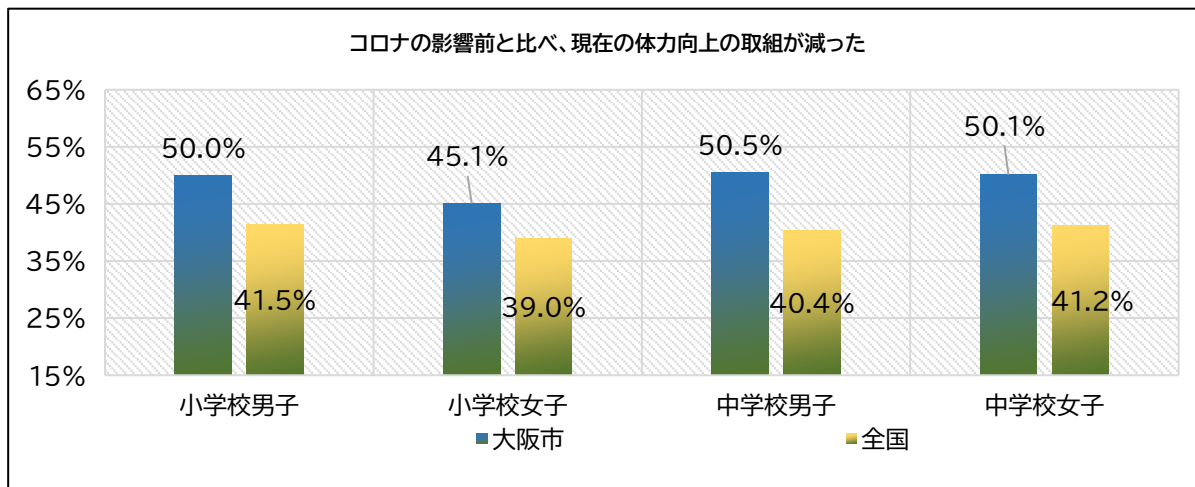
学校外では、小・中学校男女とも「同学年の友だち」と運動することが一番多い。「家の人や親」と運動している割合は、全国と比較すると、顕著に低い。特に、中学生男子は実施率が低い。

1-4 体育の授業では、たくさん運動しますか。

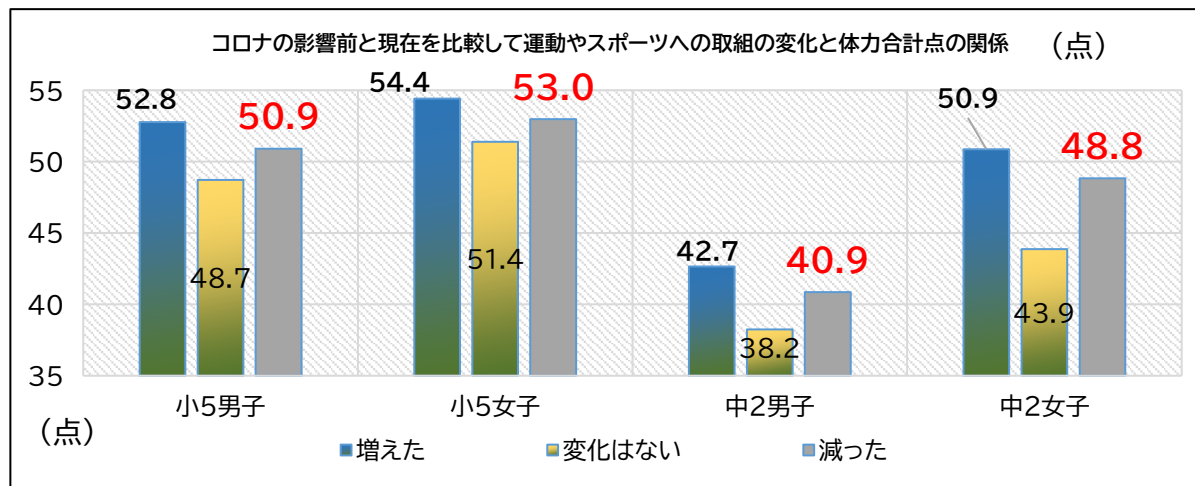


体育・保健体育の授業で「動いていない」児童生徒は、一部で見られるが、小学生男女で、全国と比べると多い。今年度の中学校男女は、全国と同様の傾向で、これまで以上に動いていない生徒が減少した。

1-5 新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在とを比較して、あなたの運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの取組はどのように変化しましたか。



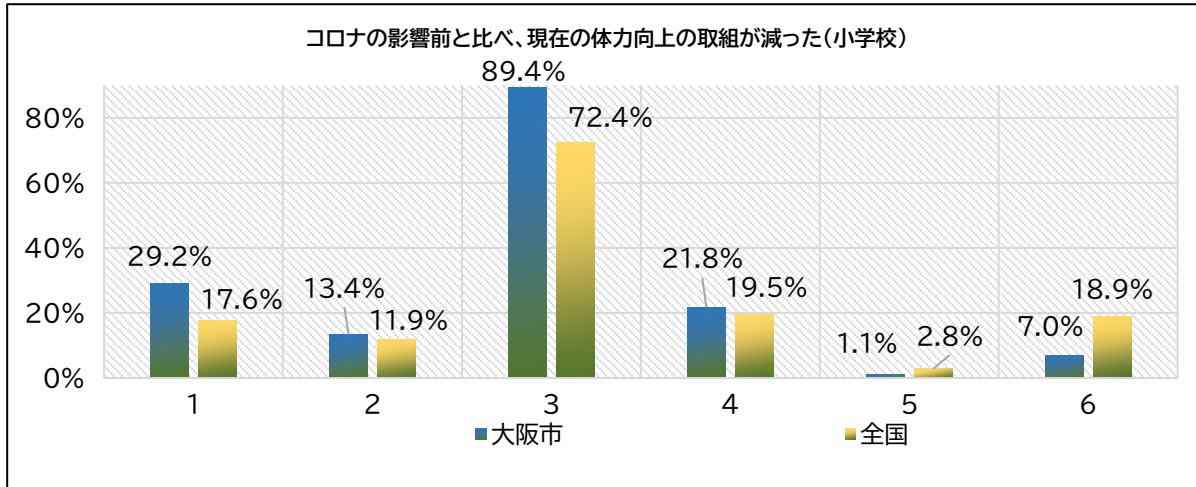
1-6 取組の変化と体力合計点の関係



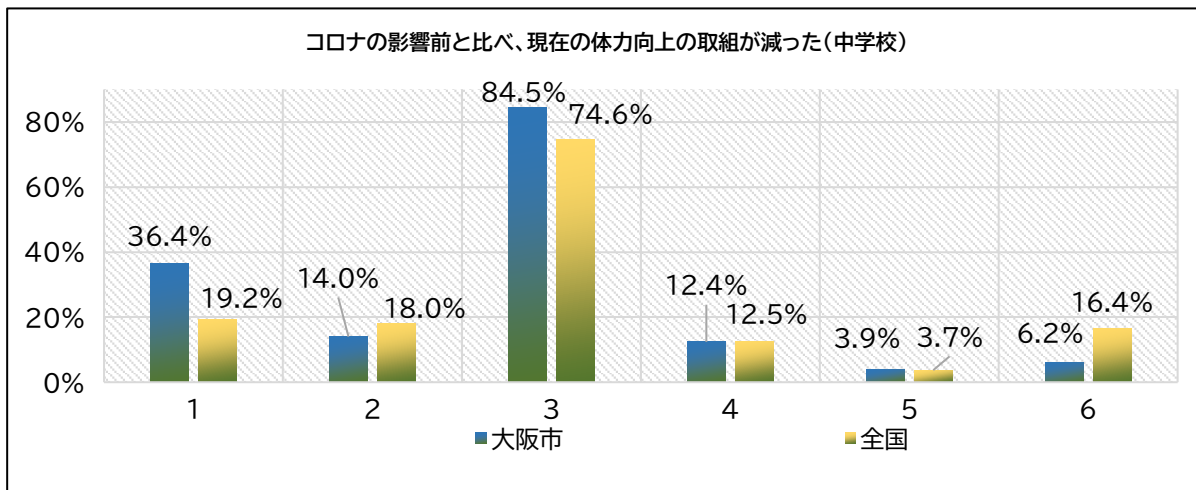
小・中学校男女とも、コロナの影響前と現在とを比較して、運動やスポーツへの取組が「減った」と感じている児童生徒は45%を超えている。体力合計点との関係では、「増えた」と感じている児童生徒が高い傾向にあるが、「減った」児童生徒より、「変化がない」児童生徒の方が低い結果となった。

(学校質問紙より)

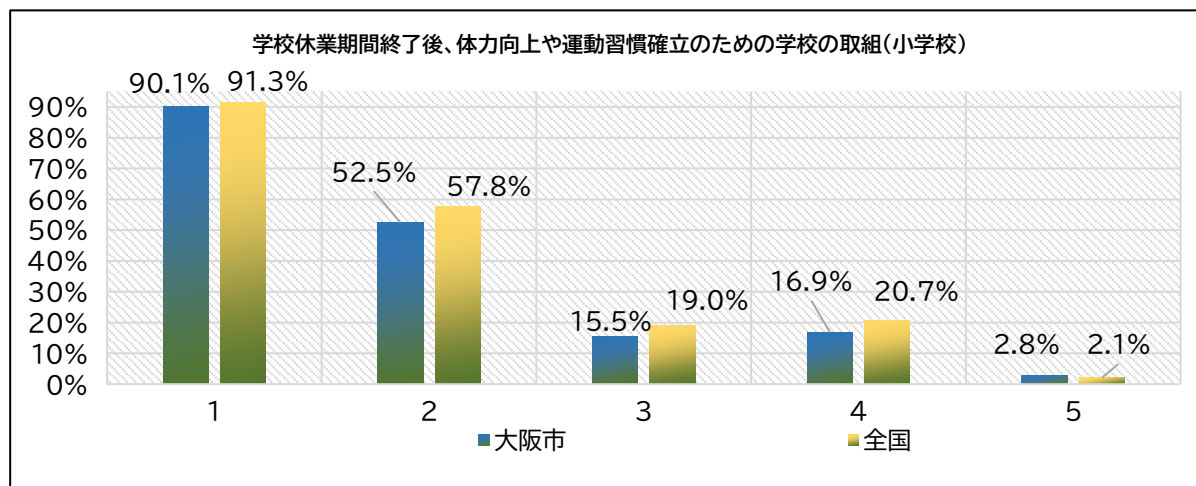
2-1 新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月前)と現在とを比較して、児童生徒にどのように変化が生じたと感じますか。(複数回答)



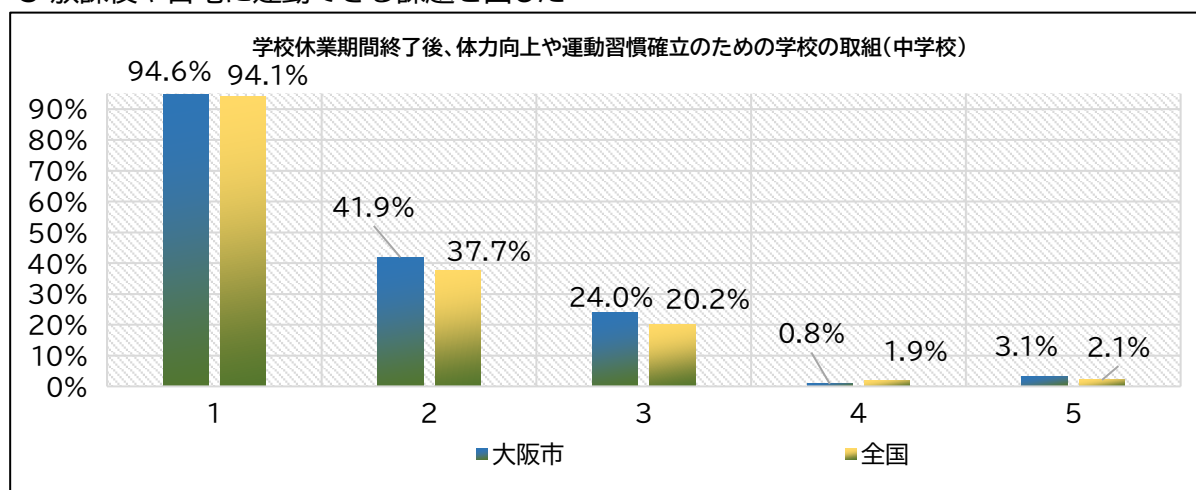
- 1 意欲的でない児童生徒の増加
- 2 積極的に運動する児童生徒の増加
- 3 体力低下している児童生徒の増加
- 4 肥満児童生徒の増加
- 5 その他
- 6 変化を感じない



2-2 学校の全部を休業していた期間が終了した以降に、コロナウイルス感染症対策を講じつつ、児童生徒の体力向上や運動習慣確立のために、学校としてどのような取組を行いましたか。(複数回答可)



- 1 児童生徒の運動量が多くなる活動に配慮 4 その他
 2 自由に運動できる場を確保した 5 特に行っていない
 3 放課後や自宅に運動できる課題を出した



「体力低下している児童生徒が増加している」と感じている学校の割合が高く、「児童生徒の運動量が多くなる活動」に配慮したり、「自由に運動できる場所を確保」したりするなど、体力向上や運動習慣確立のための取組が行われている。

(全体として)「全国体力・運動能力運動習慣等調査」結果から、コロナの影響前となる令和元年度より、体力合計点を含め体力の低下が明らかとなったが、特に小学生については、放課後や休みの日に全く運動していない男女の児童で増加や体育の授業で動いていない男子児童の増加が見られ、体力低下に影響する要因であったと考えられる。

一方で、中学生については、運動部等への未加入率が男女で増加しているが、放課後や休みの日に全く運動していない女子生徒の減少、保健体育の授業で動いていない男女の生徒が減少していることから、体力低下を一定踏み留まっているとも推察される。

学校はコロナの感染防止対策を講じながら、体力向上のための工夫・改善をした取組を行っていることから、今後徐々にではあるものの、児童生徒の体力向上の成果に表れると期待している。